



**上手なコミュニケーションで
働きやすい職場環境作りを**

NTT労組
コムウェア九州分会

発行責任者
権丈 雄二

編集責任者
羽田 康祐

二〇一六年一〇月七日
(金) 品川にて、労使共催
で二〇一六年度安全衛生
セミナーが開催された。

安全衛生セミナーは二部構成で行われ、第一部では、日本メンタルヘルス協会代表の衛藤信之氏による「心理学から学ぶ職場でのコミュニケーション」というテーマで其調講演があり、コミュニケーションのコツは次の通りと紹介された。

まず、聴き方のコツとして、相手の鏡になることであり、①くり返す②話をまとめる③心を汲むといったアクティブ・リスニングを心がけることと話された。

また、伝え方のコツは、相手に向けられる「YOUメッセージ」ではなく、自己開示の「Iメッセージ」で表現する事であり、①相手の行為や出来事を非難がましくなく述べる②その行為によって生じる「波及効果」を伝える③自分の素直な心

私のBS部 北田 照夫さん
私の住むまち「博多」

福岡市は那珂川を挟んで「博多」と「福岡」に分かれており、江戸時代に博多は町人の町、福岡は武士の町として発展しました。私たちが勤務する御供河町は博多に属し、博多湾から約2km続く大博通りは高低差が高いところを結んだ直線道路であり、特に当ビル周辺が一番高いそうです。

現在の町割り、安土桃山時代に豊臣秀吉の太閤町割りによって整備されましたが、それ以前は鎌倉時代、坂の上で見晴らしのよかった聖福寺を基準にして町割りがされました。また、櫛田神社の裏口には不自然な段差がありますが、この周辺は鎌倉時代まで港であり中国貿易の拠点でした。博多のルーツは2つの砂丘であり、約2千年前から人々が暮らし始めたようです。

福岡

博多

(羽田)

情を伝える事だと話された。衛藤講師はアリゾナのネイティブ・アメリカンと居留地で一年間生活を共にする経験を持ち、「インディアン・カウンセラー」として人気の先生であり、感情



を込めた情熱的な語り口で、我々聴衆は引き込まれ聞き入っていた。

第二部では、コムウェアの疾病状況の報告、コムウェアの特徴分析と相談事例、対策についての紹介や、各支店の取り組みの紹介などが行なわれた。

本セミナーを受け、働く仲間同士で上手なコミュニケーションを取ることにやり、働きやすい職場環境作りを努める事が大事であり実践したいと思った。

あなたにとって一番大切な時間とは。

あなたの幸せは、みんなの幸せ
労働時間適正化に取り組もう!

労働時間適正化月間

2016年11月/2017年2月・3月

11月は「過重労働解消キャンペーン」期間、「過労死等防止啓発月間」です。



「ヤングカーニバルin沖縄2016」

戦後72年 平和の尊さを実感 ～戦争の悲惨さを若い世代で語り継ぐ～

BS部 中村 寛子さん

二〇一六年九月二日(土)五日(月)に連合福岡主催の「ヤングカーニバルIN沖縄二〇一六」が開催され、CW九州分会からはBS部の中村さんが参加した。

連合福岡主催の「ヤングカーニバルIN沖縄二〇一六」に参加してきました。本取り組は、①アジア・太平洋戦争の激戦地である沖縄の戦跡をめぐり、平和について学習し、日常生活や今後の活動に活かすこと②連合福岡に加盟する各構成組織との交流親睦を図ることを目的とした取り組みです。各構成組織が参加し、二日間と短い時間でしたが、ひめゆりの塔(平和講演)、資料館見学、平和の礎、首



里城(本部壕跡)、嘉数高台公園(普天間基地)、糸数壕(アブチラガマ)、チビチリガマ辺野古視察といつた多くの戦跡・米軍基地をめぐりました。

ひめゆりの塔の平和講演では、生々しい体験談を聞くと共に、今では当たり前となった「平和」な現代を生きていることのありがたさ、尊さを考える良い機会となりました。その後、「ひめゆり学徒隊」によって戦傷者への看護が行われた糸数壕を訪れ、講演の壮絶な現場が思い浮かび、改めて平和の尊さを実感しました。戦後七十二年も経っており、戦争体験者も亡くなられ、生の声を聞く機会がなくなっていく状況であるため、悲惨な過ちを二度と繰り返さないためにも戦争の悲惨さ

frage代表 あいさつ 山田 勇太 さん



皆様、お世話になっております。今年度よりfrage代表を担当させて頂く事になりました山田です。分会のイベントで長崎平和フォーラム、平和行動IN稚内に積極的に参加をしていたのですが、気がつくともfrage代表になっていました。frage代表抱負としましては、今まで行ってきたイベントに加え、何か新しいことが出来ればよいと思っています。要望等ありましたらこちらまでどしどしご応募ください。慣れないことばかりで、至らない点多々あるかと思いますが、精一杯努めたいと思います。

精一杯頑張ります。よろしくお願ひします。

次号は「女性代表あいさつ」を掲載します。



残酷さを語り継ぐのは、戦後の世代の私たちです。若い世代を中心に、少しずつでも一人一人の意識を変えていくことが大切だと思います。本取り組みの最後に行ったグループディスカッションの時間内に話きれないほど、戦争の悲惨さ残酷さ、様々な思いを感じられた平和学習となり、本取り組みのように若い人を対象とした平和学習は、非常に重要だと感じました。

実際に体験することで、違った考えや思いを感じる事ができるかと思ひます。



皆様も家族旅行等で沖縄に行かれた際は、ぜひ、ひめゆりの塔、糸数壕(アブチラガマ)に足を運んで頂きたいと思ひます。私は貴重な体験をさせて頂いたので、この経験を活かし、今後の組合活動に取り組みで行きたいと思ひます。